

秘

燃研秘第六三號 3

昭和十二年八月

作業經過

(昭和十一年度)

内 容	目次	4 頁
	本文	86 頁

海軍燃料廠研究部

昭和十一年度作業經過目次

一 一般經過概要

二 昭和十一年度試驗檢查並ニ實驗成績調

(1) 一般分析試驗ニ關スル統計

(2) 煉炭試焚成績概要調

三 豫算

(1) 昭和十一年度豫算決算調

(2) 昭和十一年度出張旅費調

(3) 昭和十一年度圖書費調

(4) 昭和十一年度建造物補修費調

(一) 新營

(二) 修繕

(3) 昭和十一年度工事別實驗研究費調

(4) 昭和十一年度工事別人件費調

(一) 昭和十一年度工事別藥品及消耗品使用高調	一七
(二) 昭和十一年度廠內委託製作並ニ修理費調	一九
(1) 試驗及研究費支辨	〃
(2) 器具機械補修支辨	二〇
(三) 昭和十一年度生產品及生產費調	二一
(四) 雇員平均給料調	二二
(五) 職工平均賃錢調	二三
(六) 職夫平均賃錢調	二四
(七) 昭和十一年度購入主要器具機械調	二五
(一) 試驗及研究費 (機械)	〃
(二) 〃 (器具)	二六
(三) 受託研究費 (機械)	二八
(四) 受託研究費 (器具)	〃
(八) 昭和十一年度各科別破損器具機械調	二九

(一) 昭和十一年度...	一五
(二) 昭和十一年度...	一四
(三) 昭和十一年度...	一三
(四) 昭和十一年度...	一二
(五) 昭和十一年度...	一一
(六) 昭和十一年度...	一〇
(七) 昭和十一年度...	〃
(八) 昭和十一年度...	〃
(九) 昭和十一年度...	〃
(十) 昭和十一年度...	〃
(十一) 昭和十一年度...	〃
(十二) 昭和十一年度...	〃
(十三) 昭和十一年度...	〃
(十四) 昭和十一年度...	〃
(十五) 昭和十一年度...	〃
(十六) 昭和十一年度...	〃
(十七) 昭和十一年度...	〃
(十八) 昭和十一年度...	〃
(十九) 昭和十一年度...	〃
(二十) 昭和十一年度...	〃
(二十一) 昭和十一年度...	〃
(二十二) 昭和十一年度...	〃
(二十三) 昭和十一年度...	〃
(二十四) 昭和十一年度...	〃
(二十五) 昭和十一年度...	〃
(二十六) 昭和十一年度...	〃
(二十七) 昭和十一年度...	〃
(二十八) 昭和十一年度...	〃
(二十九) 昭和十一年度...	〃
(三十) 昭和十一年度...	〃
(三十一) 昭和十一年度...	〃
(三十二) 昭和十一年度...	〃
(三十三) 昭和十一年度...	〃
(三十四) 昭和十一年度...	〃
(三十五) 昭和十一年度...	〃
(三十六) 昭和十一年度...	〃
(三十七) 昭和十一年度...	〃
(三十八) 昭和十一年度...	〃
(三十九) 昭和十一年度...	〃
(四十) 昭和十一年度...	〃
(四十一) 昭和十一年度...	〃
(四十二) 昭和十一年度...	〃
(四十三) 昭和十一年度...	〃
(四十四) 昭和十一年度...	〃
(四十五) 昭和十一年度...	〃
(四十六) 昭和十一年度...	〃
(四十七) 昭和十一年度...	〃
(四十八) 昭和十一年度...	〃
(四十九) 昭和十一年度...	〃
(五十) 昭和十一年度...	〃

昭和十一年度印刷所作業年報	三〇
昭和十一年度研究實驗成績報告類發行	三二
(1) 研究實驗成績報告(普通)	三五
(2) 研究雜報	三七
(3) 摘錄	三八
(4) 調查報告	四〇
昭和十一年度配員並異動調	四一
(1) 配員表	四一
(2) 判任官以上異動調	四八
(3) 雇員以下異動調	六三
六 雇員以下出身學校並海陸軍出身者調	六四
七 昭和十一年度職工勤務關係調	六四
(1) 遲刻者調	六四

昭和十一年度印刷所作業年報	三〇
昭和十一年度研究實驗成績報告類發行	三二
(1) 研究實驗成績報告(普通)	三五
(2) 研究雜報	三七
(3) 摘錄	三八
(4) 調查報告	四〇
昭和十一年度配員並異動調	四一
(1) 配員表	四一
(2) 判任官以上異動調	四八
(3) 雇員以下異動調	六三
六 雇員以下出身學校並海陸軍出身者調	六四
七 昭和十一年度職工勤務關係調	六四
(1) 遲刻者調	六四

(林) 離職者	六四
計開第十一卷對工...	六三
六 職員及不...	六二
何 職員及不...	六一
何 職員及不...	六〇
何 職員及不...	五九
何 職員及不...	五八
何 職員及不...	五七
何 職員及不...	五六
何 職員及不...	五五
何 職員及不...	五四
何 職員及不...	五三
何 職員及不...	五二

(四) 公務負傷休業者調	六四
(三) 病氣休業者調	六三
(二) 事故休業者調	六二
(一) 早退者調	六一
八 昭和十一年度講演並二雜誌會調	六〇
(1) 部内講演	五九
(2) 部外講演	五八
(3) 特殊講演	五七
(4) 雜誌會	五六
九 受特許調	五五
一〇 善行及受罰調	五四
(1) 善行表彰	五三
(2) 受罰者	五二
一一 昭和十一年度主要行事調	五一
八〇 (終)	〇

昭和十一年度作業經過

一 一般經過概要

多年ノ基礎的研究成果ノ中規模實驗移行ノ爲研究費ト従業員數トハ前年度ニ引續キ増大シ研究費ハ朝望及空廠受託研究費ヲ併セ五拾六萬圓ニ達シ研究ニ從事スル者ハ部長以下二百七十餘名ニ及ベリ

研究ニ主力ヲ注ゲル石炭液化ハ當廠ノ成果ニ基キ朝望及滿鐵ニ於テ工場建設ヲ開始セル爲民間企業家ニシテ當廠液化實驗裝置ノ見學ヲ申出ツル者多數ニ上レリ此ノ空氣ヲ察シ從來極秘扱トセル液化報告ニシテ差支ナキモノハ悉ク普通報文トシテ一般ニ公開セリ

混炭油ハ品質改善ニ努力セル結果一年餘貯藏スルモ沈澱物ナキモノヲ得ラルルニ至リタリ

航空揮發油ノ研究ニ就テハ前年度ニ引續キ水素添加ニ關スル研究ヲ續行スル外新種配合用燃料ノ合成ニ手ヲ深メタリ又航空廠ノ委託ニ依リイソオクタン及溶劑ニ依ル潤滑油ノ製造研究、中規模實驗裝置ノ設計

一 一般經過概要

昭和十一年度作業經過

多年ノ基礎的研究成果ノ中規模實驗移行ノ爲研究費ト従業員數トハ前年度ニ引續キ増大シ研究費ハ朝望及空廠受託研究費ヲ併セ五拾六萬圓ニ達シ研究ニ從事スル者ハ部長以下二百七十餘名ニ及ベリ

研究ニ主力ヲ注ゲル石炭液化ハ當廠ノ成果ニ基キ朝望及滿鐵ニ於テ工場建設ヲ開始セル爲民間企業家ニシテ當廠液化實驗裝置ノ見學ヲ申出ツル者多數ニ上レリ此ノ空氣ヲ察シ從來極秘扱トセル液化報告ニシテ差支ナキモノハ悉ク普通報文トシテ一般ニ公開セリ

混炭油ハ品質改善ニ努力セル結果一年餘貯藏スルモ沈澱物ナキモノヲ得ラルルニ至リタリ

航空揮發油ノ研究ニ就テハ前年度ニ引續キ水素添加ニ關スル研究ヲ續行スル外新種配合用燃料ノ合成ニ手ヲ深メタリ又航空廠ノ委託ニ依リイソオクタン及溶劑ニ依ル潤滑油ノ製造研究、中規模實驗裝置ノ設計

三 豫 算

(1) 昭和十一年度豫算決算調

款	項	目	節	配付豫算			豫算使用額			豫算殘額			記 事	
				額	率	率	額	率	率	額	率	率		
海軍燃料 廠作業費	事業費	廳 費	兵要及技 術圖書費	14,000	100.00	14,000	14,000	100.00	14,000					
				1,900	100.00	1,900	1,900	100.00	1,900					
				1,000	100.00	470	47.00	530	53.00	470	47.00	530	53.00	外修理工場分割額 200 圓
				1,000	100.00	1,400	140.00	1,400	140.00	1,400	140.00	1,400	140.00	外修理工場分割額 200 圓
				1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	外修理工場分割額 200 圓
				1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	1,000	100.00	外修理工場分割額 200 圓
		試驗及研究費		4,638	100.00	4,638	4,638	100.00	4,638	4,638	100.00	不足額 1,400 圓		
		動力及需品費		1,332	100.00	1,332	1,332	100.00	1,332	1,332	100.00			
		材 料 費		1,000	100.00	1,000	1,000	100.00	1,000	1,000	100.00			
		器具機械補修		1,000	100.00	470	47.00	530	53.00	470	47.00	外修理工場分割額 200 圓		
		內國旅費		1,900	100.00	1,900	1,900	100.00	1,900	1,900	100.00			
		試驗及研究費		4,638	100.00	4,638	4,638	100.00	4,638	4,638	100.00	不足額 1,400 圓		

備 考

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

材料物品	二九六一七	五七〇	二九六五七四	五〇七	三〇五九	九三七
試驗研究委託費	共〇〇〇〇〇〇	共〇〇〇〇〇〇	共〇〇〇〇〇〇	〇		
職工人夫	九四四〇五	九四四〇五	九四四〇五	九四四〇		
備給	天七〇六三	七〇六三	七〇六三	七〇六三		
備給	三三八八	三三八八	三三八八	三三八八		
慰勞金	共〇九三	共〇九三	共〇九三	共〇九三		
備給	一七九三	一七九三	一七九三	一七九三		
雜給及雜費	共〇一七	共〇一七	共〇一七	共〇一七		
受託研究費	二〇〇〇〇〇	一八七四七	三六五	一三三三	六三三	殘額ハ日室ハ返却ス
材料物品	一三三三	一三三三	一三三三	六〇一	八〇〇	
職工人夫	三三三	三三三	三三三	三三三	〇〇〇	
內國旅費	三三三	三三三	三三三	〇	〇	
備給	四四五	四四五	四四五	〇	〇	
雜件費	共〇〇〇〇〇	共二二七	共二二七	共二二七	共二二七	

年末賞與ヲ含ム天然瓦斯
 驗所滞在旅費トテ内國旅費
 二四一三〇・三〇〇ヲ流用ス

材料物品	二九六一七	五七〇	二九六五七四	五〇七	三〇五九	九三七
試驗研究委託費	共〇〇〇〇〇〇	共〇〇〇〇〇〇	共〇〇〇〇〇〇	〇		
職工人夫	九四四〇五	九四四〇五	九四四〇五	九四四〇		
備給	天七〇六三	七〇六三	七〇六三	七〇六三		
備給	三三八八	三三八八	三三八八	三三八八		
慰勞金	共〇九三	共〇九三	共〇九三	共〇九三		
備給	一七九三	一七九三	一七九三	一七九三		
雜給及雜費	共〇一七	共〇一七	共〇一七	共〇一七		
受託研究費	二〇〇〇〇〇	一八七四七	三六五	一三三三	六三三	殘額ハ日室ハ返却ス
材料物品	一三三三	一三三三	一三三三	六〇一	八〇〇	
職工人夫	三三三	三三三	三三三	三三三	〇〇〇	
內國旅費	三三三	三三三	三三三	〇	〇	
備給	四四五	四四五	四四五	〇	〇	
雜件費	共〇〇〇〇〇	共二二七	共二二七	共二二七	共二二七	

(四) 昭和十一年度出張旅費調

科目	使用別				
	高等官	判任官	雇員	職工	計
内國旅費(部内)	一四四八・九五〇	三六四・三四〇	六九・〇〇〇	一	一八八三・二九〇
内國旅費(部外)	七六七・七〇〇	一	一	一	七六七・七〇〇
水陸整備費	九一八・三三〇	一三八・一三〇	二六三・四八〇	一	一四二一・九三〇
監督諸費	一四二・〇八〇	一	一	一	一四二・〇八〇
學藝技術獎勵金	三三四六・一一〇	三三・九六〇	一	一	三三七八・〇七〇
受託研究費	一	一	一	一	三三九・七五〇
試験及研究費	一	一	一	一	三三九・七五〇
計	五六一三・一六〇	五三三・四三〇	三三三・四八〇	二二九・七五〇	六七八〇・八三〇

備考 本表以外ニ本省支弁概算額 六四・七〇〇圓アリ

計	部別						計
	教習所	副官	醫務部	會計部	製油部	煉炭部	
五、四四一	一七〇	一〇八	二二三	一六八	一七六	二〇〇	四、五四六
六七〇	〇一〇	六二〇	六二〇	七七〇	九二〇	六五〇	〇八〇
三、七三五							三、七三五
三〇〇							三〇〇
五、九七六	二三	一一〇	三	五〇	五三一	二五	五、二二二
四三〇	五〇〇	四二〇	五〇〇	四〇〇	一〇〇	〇〇〇	五一〇
一五、二五三	三九	二二九	二二七	二二九	七〇八	二二五	一三、五〇四
四〇〇	五一〇	〇四〇	一一〇	一七〇	〇二〇	六五〇	八九〇

内 外 雜 誌

バツクナンバー

單 行 本

計

(二) 昭和十一年度建造物補修費調

(一) 新 營

建物番號	名稱	構造	造	數	量	價	格	竣工年月日	記事
二九〇	實驗場	鐵骨平家一部二階	延建	一〇〇	二五、一三七	圓	昭和二二〇〇		
二九八	〃	〃	延建	四九	五、三九四	〇〇	〃		
二九四	便所	鐵筋混泥土造平家	延建	二二	六六〇	〇〇	〃	八二	
二九五	渡廊下	鐵骨造吹拔	延建	一一	六七・八〇	〃	〃		
財 七 八二	配水管	內徑一〇〇耗鑄鐵及砲金製 穿四箇所	延建	八七・五米	三一五・〇〇	〃	〃	一〇三	
二九三	第六自轉車置場	木造平家	延建	一六	一六五・一〇	〃	〃	八二	
計					二一、七三八・九〇				

備考 外ニ官給材料トシテ實驗場用ニセメント一、五〇一・四四圓
配水管用ニ管系類八八九・〇一圓アリ

二九〇	實驗場	鐵骨平家一部二階	延建	一〇〇	二五、一三七	圓	昭和二二〇〇	
二九八	〃	〃	延建	四九	五、三九四	〇〇	〃	
二九四	便所	鐵筋混泥土造平家	延建	二二	六六〇	〇〇	〃	八二
二九五	渡廊下	鐵骨造吹拔	延建	一一	六七・八〇	〃	〃	
財 七 八二	配水管	內徑一〇〇耗鑄鐵及砲金製 穿四箇所	延建	八七・五米	三一五・〇〇	〃	〃	一〇三
二九三	第六自轉車置場	木造平家	延建	一六	一六五・一〇	〃	〃	八二
計					二一、七三八・九〇			

(二) 修繕

建物番號	名稱	價格	竣工年月日	記	事
一二分	析所	一、六〇八・〇〇	昭和二一・八・二	模様替	リノリユム敷其ノ他
二六二	實驗場	一八〇・〇〇	"	模様替	混凝土敲キ其ノ他
一七八	第二實驗場	一八・九〇	"	模様替	間仕切取除
二四七	第五計量所	五九・六六	"	移轉	煉炭部ヨリ多クノ工場迄
一二分	析所	三五八・〇〇	"	煉瓦漏水修理	
一二分	析所	三一・三〇	昭和二三・三・二	雨漏	
二五〇	現業員詰所	七九・六〇	"	修繕	出入口レール其ノ他
二四九	水素製造所	四六・八〇	"	"	
二六九	水性瓦斯發生場	四三・六〇	"	"	樋取替其ノ他
二七一	發電所	三四・四〇	"	"	
二七〇	合成及精製場	四二・八〇	"	"	
二七二	貯槽場	一・五〇	"	"	
計		二、五〇四・一六			

昭和十一年度工事別實驗研究費調

工 事 別	人 件 費	器具機械費	材料消耗及藥品	電力及瓦斯費	圖書費
石炭液化ノ研究實驗	二七四〇〇	五七四五	七二七	四〇一〇	四〇〇
混炭重油ノ研究實驗	三三九〇	三三三	一七七一	四〇〇	一〇〇
航空燃料ノ研究實驗	二二〇三	四一三	四八七	三〇〇	一〇〇
ベンゾールノ合成研究實驗	一三一九	一七五九	四四七	三〇〇	一〇〇
燃料ノ實驗室研究	二一八〇	一八四六	一〇六九	三〇〇	一〇〇
潤滑油ノ研究實驗	一七七一	四八五	六二二	一〇〇	一〇〇
燃料ノ實用實驗	一八五三	四二八	一五〇七	三〇〇	一〇〇
燃料ノ試驗檢査	一〇七〇	一三〇	四〇二	一〇〇	一〇〇
資 源 調 査	六八三	八三	七九〇	一〇〇	一〇〇
水素添加装置建設	九一四七	一〇〇	二六四〇	一六〇〇	一〇〇
合 計	一四四八七〇	一七三〇九三	五九七八九	二五〇〇三	一五〇三八〇

備考 一、航空燃料ノ研究實驗ニ京大基礎研究委託費五、〇〇〇圓ヲ加算ス

二、使用済總額ト令示額ト合致セザルハ材料消耗及藥品ノ翌年度越ニヨル

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a continuation of the financial report or a detailed ledger. The text is mostly illegible due to fading and low contrast.

度工專別實驗研究費調

別	人件費	器具機械費	材料消耗及藥品	電力及瓦斯費	圖書費	修理製作費	合計
實驗	27,460.000	2,740.000	5,217.600	4,201.000	1,400.000	4,336.000	47,794.600
實驗	3,330.000	2,111.000	1,771.000	600.000	1,100.000	1,176.000	9,988.000
實驗	11,200.000	1,114.000	4,487.000	1,800.000	1,911.000	1,700.000	23,812.000
實驗	1,518.000	1,752.000	1,477.000	3,000.000	1,152.000	1,000.000	10,101.000
實驗	11,200.000	1,800.000	10,690.000	4,200.000	1,911.000	1,700.000	29,501.000
研究	11,771.000	1,800.000	6,872.000	1,000.000	1,000.000	1,800.000	25,173.000
實驗	1,800.000	1,200.000	1,510.000	3,300.000	1,668.000	1,900.000	11,378.000
查	10,870.000	1,501.000	4,022.000	1,200.000	938.000	3,538.000	21,069.000
查	6,853.000	893.000	760.000	1,100.000	625.000	1,100.000	11,251.000
建設	9,147.000	100.000	3,440.000	1,600.000	834.000	420.000	17,541.000
計	144,870.000	17,509.300	59,789.900	25,004.500	15,038.800	44,148.800	266,359.300

空燃料ノ研究實驗ニ京大基礎研究委託費五、〇〇〇圓ヲ加算ス

用濟總額ト合致セザルハ材料消耗及藥品ノ翌年度越ニヨル

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a continuation of the financial report or a related document. The text is mostly illegible due to fading and low resolution.

内 譯

(一) 昭和十一年度工事別人員費調

工事別	區分		職 工	職 夫	人 夫	合 計
	雇 員	職 工				
石炭液化ノ研究實驗	四〇七九	九〇〇	一八五八	七〇〇	四一四	二,三六八
濕炭重油ノ研究實驗	八九二	一六〇	一四六二	四四〇	五六六	二,九二一
航空燃料ノ研究實驗	二八二五	九〇〇	一四八六	六三〇	一四六	一,八二〇
ペンソールノ合成研究實驗	四四二五	五〇〇	六四九七	七〇〇	五三六	一,四六〇
燃料ノ實驗室研究	四六九八	一六〇	一五〇七	五九〇	三六	一,八二八
潤滑油ノ研究實驗	二〇六三	六八〇	七四七	八八〇	一三六	一,〇一九
燃料ノ實用實驗	五五五三	〇六〇	八二七	一〇〇	四一三	一,六〇六
燃料ノ試驗検査	五七一六	五〇〇	五七〇	二八〇	一六一	一,四四八
資 源 調 査	三〇九六	五九〇	二八〇八	四六〇		三,九〇四
メタノール製造	四五五〇	六六〇	四九一五	四六〇	一〇九一	一,九〇六
					二五〇	七〇〇

昭和十一年度廠内委託製作並ニ修理費調
 (1) 試驗及研究費支辨

工場別	種別	製作	修理	改造	掘付	移轉	雜費	計
石炭液化研究實驗		九三九四一	四三三三九八九		五二八三四		五二八三四	四八九六七九
水素添加研究實驗		四〇六三二六	一三六三九七		七八九九			共計一三三三
航空燃料研究實驗		二〇三六六	六六三二八		三三三三三	一五〇二一〇		共計四四四七
燃料實用實驗		八三三三二	四〇三三四			五三六九六		共計一三三四七
天然瓦斯研究實驗								
潤滑油研究實驗		四一四三三〇	一七〇三二〇		四八九五三			共計四八三九三
混炭重油研究實驗		三三七七	一三三三三					共計四七一〇
燃料實驗室研究		一四三二七五	一七四四二					共計三一七六九
燃料ノ試驗檢査			一〇一三六八			二九二七		共計一三〇六五
資源調査		二六六三三	一六八七九					共計四三五二
工務、倉庫		一八九八六〇	八三三三三					共計二七三一九〇

Handwritten notes and ledger entries on the right page, including various numbers and text, possibly related to the financial records on the left page.

例職工平均賃額調 (昭和十二年三月三十一日調)

一	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三	一人日額
九五	〇〇	〇五	一〇	一五	二〇	三〇	四〇	六〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	員數
四	三	一	三	三	二	三	三	二	一	一	一	一人日額
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	員數
三五	四〇	四五	五〇	五五	六〇	六五	七〇	七五	八〇	八五	九〇	一人日額
九	五	〇	八	九	九	一三	九	一二	六	六	九	員數
												一人日額
		四五	五〇	五五	八〇	八五	〇〇	一五	二〇	二五	三〇	員數
		七	五	四	四	一	一	一	一	二	五	平均賃額
											平均賃額	
$\frac{\text{Y} 289.600}{183} = 1.5825$											一・五八	

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六	十六
十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七	十七
十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八	十八
十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九	十九
二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十

〇〇〇.〇〇〇 = 〇.〇〇〇

(*)昭和十一年度購入主要器具機械調
 (一)試驗及研究費(機械)

名稱番號	品名	金額	數量	製作所	能力寸法
九八一	乳劑機	七七八一五〇	一	細川鐵工所	容量每時二五—五〇ガロン 廻轉每分一〇、〇〇〇—二馬力
一〇〇三	小型高速 字七九七機	一、八二九〇五〇	一	神戸製鋼所	常用軸馬力一〇—一 每分廻轉一、八〇〇 三五—三九馬力
一〇〇四	潤滑油試驗機	二、九一三三四〇	一	大阪機械工作所	廻轉三〇〇最大壓力三〇〇磅 能率三〇立方尺(自由瓦斯)
一〇〇九	水素試驗機	八、七二三七五〇	一	東京石川島造船所	廻轉三〇〇最大壓力三〇〇磅 能率三〇立方尺(自由瓦斯)
一〇〇八	心分離機	九三〇〇〇〇	一	田中機械製作所	一回ノ處理量 五瓩
一〇一六	小型高速 字七九七機	二、三四七二〇〇	一	新潟鐵工所	軸馬力 一〇 同轉一、八〇〇—二、〇〇〇
一〇二二	航空潤滑油水素 添加實驗裝置	一六、五九九七〇〇	一	神戸製鋼所	
一〇二二	液體空氣製造機	一四、五〇〇〇〇〇	一	右	每時吐出量 八〇立方尺 壓縮空氣 三〇〇氣壓
一〇二三	小型連續式 石炭液化實驗裝置	一五、九六八〇〇〇	一	右	使用壓力 四〇〇氣壓

Table with faint grid lines and illegible text, likely a ledger or account book page.

八二八	加壓釜	七二〇〇〇〇	一	西	一	常用攝氏50度、300氣壓ニ耐ユ
八二九	同	七二〇〇〇〇	一	同	同	同
八三〇	同	七二〇〇〇〇	一	同	同	同
八三一	同	七二〇〇〇〇	一	同	同	同
八三三	蒸氣煖房	一、六八五〇〇〇	一	須賀商店	所	廓大力30×11800×
八三四	顯微鏡	一、一〇〇〇〇〇	一	島津製作所	所	アツペ式
八四一	屈折計	八九〇〇〇〇	一	淺野物産株式會社	所	六エチレマン型
八四二	記振器	三、七七五〇〇〇	一	横河電氣製作所	所	入射面約一耗×三三耗
八四六	波長分光器	七四〇〇〇〇	一	島津製作所	所	
八五三	高溫精密分溜試験器	二、〇七〇一八〇	一	田中商事株式會社		
八五九	粘度計	六一〇〇〇〇	一	同		マクミケール氏改良型
八六〇	電氣爐	二、五九七四〇〇	一	千野一雄		最高溫度一、六〇〇〇度 電壓二〇〇V、六〇〇サイクル
八六一	指壓器	三、一八六五四〇	一	日本電氣株式會社		スタンダードステーション スタンダードサ ンペリエンチンチゲ ンベリエンチンチゲ

八二二	同	三、三三〇〇〇	一	同		
八二二	同	三、三三〇〇〇	一	同		
八二〇	同	六、八〇〇〇〇	一	同		
八一六	同	六、八〇〇〇〇	一	同		
八一三	同	五、一〇〇〇〇	一	同		
八〇九	同	一、八〇〇〇〇	一	同		
八〇四	同	八、三〇〇〇〇	一	同		
八〇三	同	八、三〇〇〇〇	一	同		

八六二	蒸氣機	六二〇〇〇〇	一	熊本田邊	
八四五	蒸氣機	二二五五〇〇〇	一	田中	
一〇三三	汽機	三〇〇〇〇〇	一		
一〇三二	汽機	五〇〇〇〇〇	一		
一〇三〇	汽機	三〇〇〇〇〇	一		
一〇二六	汽機	四二四二四〇	一		
一〇二五	汽機	三六二二二〇	一		
一〇二三	汽機	三三〇〇〇〇	一		
一〇二二	汽機	一四六〇〇〇	一		

(九) 昭和十一年度各科別破損器具機械調

科別	金額	記	事
研究科	五、五二三 一七〇	固定資本器具機械ヲ含ム	石油精製器、加壓釜、熱量計等
實驗科	一五、一二九 四〇四	油壓唧筒機械、水量計、電動機、蒸氣管等	
印刷所	七二四 三五〇	斷截器	
合計	二一、三七六 九二四		

昭和十一年度印刷所作業年報

要求元件數	部	數	梓	數	頁	數	紙	代
副官部	三九四	一〇一、〇六三	一、三二二	五八六、〇九六	二四一、三二〇			
煉炭部	五一	八五、三三五	二二三	一九五、二一八	一〇八、七三〇			
製油部	一〇七	一三九、五三〇	六二四	五一六、一七四	二九六、一三〇			
研究部	一五三	一六六、七三三	二、九六九	一、八五四、七四九	八三八、二九〇			
會計部	一八五	三九八、三二一	八一〇	一、一四八、二五九	六六九、二三〇			
醫務部	四七	三四、五五〇	一七七	七〇、一六六	三九、八八〇			
修理工場	四二	七一、二五七	一五〇	一三二、三五九	七六、一〇〇			
合計	九七九	一、二九六、七八九	六、二六五	四、五〇三、〇二一	二、二六九、六七〇			
平均	八二	一〇八、〇六五	五〇五	三五七、二五七	一八九、一四〇			

人件費計

五、三八六、八五〇

動力需品費

一、〇八〇、七三〇

一箇月平均人件費

四四八、八五〇

合	三、三六六、八二〇							
製	二、四三〇、〇〇〇							
製	一、二九六、七八九							
製	一、五三三、〇〇〇							

四 昭和十一年度研究實驗成績報告類發行
 (1) 研究實驗成績報告 (普通)

發行番號	題 目	發行年月	主任研究實驗者
第一〇九號	クロールヒドリンノ合成ト其ノ粘稠性ニ就キテ	昭和一一一五	海軍技師 景平 一雄
第一一〇號	石炭完全瓦斯化ノ研究 (第十一報) 瓦斯及水蒸氣氣流中ニ於ケル石炭ノ乾溜	"	海軍機關中佐 並河 孝 技 生 國居 報一
第一一一號	石炭液化法ニ關スル研究 第一報 石炭粒子ノ大サガ石炭液化ニ及ボス影響 第二報 混和剤ノ粘度ガ石炭液化ニ及ボス影響 第三報 酸化鐵ノ有無ガ石炭液化ニ及ボス影響 (其ノ一)	一一一六	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋 功夫
第一一二號	同 第四報 反應溫度ガ石炭液化ニ及ボス影響 (其ノ一)	"	同 右

第一一四號	第一一三號		
石炭液化法ニ關スル研究	第十二報 石炭液化ノ反應機構ニ 關スル研究 高壓水素下ニ於ケル工 テニル類ノ分解	第十一報 本邦産各種石炭ノ液化 實驗	同 第八報 タールノ混和量ガ石炭液 化ニ及ボス影響 第九報 混和タールノ種類ガ石炭 液化ニ及ボス影響(其ノ 二) 第十報 撫順炭液化率ニ就テ
一一一九	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋 功夫

第一一三號	同	同	同
第一一四號	同	同	同
第一一五號	同	同	同

第一一六號	第一一五號	
<p>同 熱分解 撫順產頁岩油ノ高壓水素下ニ於ケル</p>	<p>同 第十九報 煤の効果 第二十報 石炭灰分及其ノ成分ノ 觸媒的効果</p>	<p>第十三報 酸化鐵ノ有無ガ石炭液 化ニ及ボス影響(其ノ 二) 第十四報 酸化鐵ノ種類ト觸媒的 効果ニ就テ 第十五報 酸化鐵ノ量ガ石炭液化 ニ及ボス影響 第十六報 反應溫度ガ石炭液化ニ 及ボス影響(其ノ二) 第十七報 反應壓力ガ石炭液化ニ 及ボス影響(其ノ二) 第十八報 水素純度ガ石炭液化ニ 及ボス影響</p>
同	同	同
<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>	<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>	<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>

第一一三號	同	同	同
<p>第六報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第七報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第八報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第九報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十一報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十二報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十三報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十四報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十五報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十六報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十七報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十八報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十九報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第二十報 鐵質ノ含有率ニ關シテ</p>	<p>第十一報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十二報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十三報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十四報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十五報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十六報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十七報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十八報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十九報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第二十報 鐵質ノ含有率ニ關シテ</p>	<p>第十一報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十二報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十三報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十四報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十五報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十六報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十七報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十八報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十九報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第二十報 鐵質ノ含有率ニ關シテ</p>	<p>第十一報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十二報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十三報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十四報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十五報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十六報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十七報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十八報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第十九報 鐵質ノ含有率ニ關シテ 第二十報 鐵質ノ含有率ニ關シテ</p>
同	同	同	同
<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>	<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>	<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>	<p>海軍技師 高小 橋川 功 夫亨</p>

(口) 研究實驗成績報告 (秘)

第二九號	樺太重油實用實驗報告	一一二二	海軍技師 同 同 技 海 海 軍 軍 技 技 生 手 師 師	笹山篠磯秋 谷縣山谷田 恒仁 延 一助博治穰
第二八號	頁岩油ノ水素添加ニ就テ (第一報)	一一一二	海軍技師 同 技 海 軍 生 師	石藤山 田井口 權軍昌 一治三
第二七號	才ハ輕油ノ水素添加分解 (第二報)	〃	囑 託	三 井 啓 策
第二六號	超高耐爆性航空揮發油試製實驗報告	一一一七	海軍技師 海 軍 技 師	野工 村藤 數幸 雄介
第一一八號	油類夾雜物定量法ニ就テ	一一一二	海軍技師 技 海 軍 技 師	坂吉 本弘 貞太 彦作
第一一七號	低温多ルノ高壓水素下ニ於ケル熱處理		同	右

第一一六號
第一一五號
第一一四號
第一一三號
第一一二號
第一一一號
第一一〇號
第一〇九號
第一〇八號
第一〇七號
第一〇六號
第一〇五號
第一〇四號
第一〇三號
第一〇二號
第一〇一號
第一〇〇號

第四〇號	英國ニ於ケル石炭液化法最近ノ進歩 就テ	一一一六	森田彰久
第四一號	膠狀燃料	"	技囑 生託 八板 木倉 元武 弘雄
第四二號	溶劑抽出法	一一一七	技 生 若 菜 章
第四三號	石炭ノ膠質溶液ト其ノ水素添加	一一一九	囑 託 板 倉 武 雄
第四四號	購入石炭及生産煉炭分析成績表 (昭和十年度) 購入原油及生産重油輕油試驗成績表 (昭和十年度)	一一一一	
第四五號	英國ニ於ケル石炭液化法ノ研究	一一一一	同技 生 森南 田灣 彰 久 遂
第四六號	石油水素添加ノ發達ト熱分解トノ經濟的比較	一一一二	篠田治男
第四七號	炭油混合物ノ乾溜ニ關スル最近ノ進歩	一一一二	技囑 生託 藤八板 井木倉 武元武 志弘雄

(四) 海軍省製鐵所報告 (一)

第一八號	前記製鐵所製成之鐵	一一一二	中野重三郎
第一九號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一三	中野重三郎
第二〇號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一四	中野重三郎
第二一號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一五	中野重三郎
第二二號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一六	中野重三郎
第二三號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一七	中野重三郎
第二四號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一八	中野重三郎
第二五號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一一九	中野重三郎
第二六號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二〇	中野重三郎
第二七號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二一	中野重三郎
第二八號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二二	中野重三郎
第二九號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二三	中野重三郎
第三〇號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二四	中野重三郎
第三一號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二五	中野重三郎
第三二號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二六	中野重三郎
第三三號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二七	中野重三郎
第三四號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二八	中野重三郎
第三五號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一二九	中野重三郎
第三六號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三〇	中野重三郎
第三七號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三一	中野重三郎
第三八號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三二	中野重三郎
第三九號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三三	中野重三郎
第四〇號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三四	中野重三郎
第四一號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三五	中野重三郎
第四二號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三六	中野重三郎
第四三號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三七	中野重三郎
第四四號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三八	中野重三郎
第四五號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一三九	中野重三郎
第四六號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一四〇	中野重三郎
第四七號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一四一	中野重三郎
第四八號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一四二	中野重三郎
第四九號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一四三	中野重三郎
第五〇號	鐵製鋼製打金機製造所製成之鐵	一一四四	中野重三郎

(二) 摘 録

第三一號	硫黄化合物ノ加鉛效果ニ及ボス影響 石炭ノ膠質溶液 Monogram for determining the friction loss for fluid flow in pipe lines.	一一一四	海軍技手 野村 數雄 技 生 八 木 元 弘 海軍機關大佐 玉井三之助
第三二號	ディーゼル燃料規格 數字ヨリ觀タル米國石油業	一一一八	海軍技手 磯谷延治 海軍書記 石丸五郎
第三三號	タールノ水素添加分解 オクタン價上昇劑イソプロピルエーテルノ製法 石油工業ニ於ケル塗料 石炭ノ部分的水素添加 直溜揮發油ノオクタン價ニ就テ	一一二一	海軍技手 野村 數雄 囑 託 三 井 啓 策 海軍技手 野村 數雄 囑 託 三 井 啓 策 同 右

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a detailed index or list of contents. The text is mostly illegible due to fading and low resolution.

第一八號	第一七號	第一六號	(木) 調査報告		第三四號	第三五號								
要 ペルシヤ油田ノ開發ト其ノ利權ノ概	世界ニ於ケル油母頁岩ノ資源ト其ノ工業ノ經過概要	伊太利ノ石油事情	ガソリンノ合成 炭化水素ノ水素添加ニ關スル理論的及技術的基礎 鹽素化合物ノ添加ニ依ル潤滑油性状ノ改良法ニ就テ 直溜揮發油ノ溜分ノツク性ニ就テ 石炭ヨリ自動車燃料ノ製造 瀝青炭抽出物ノ化學的性状ニ就テ	米多ン含有瓦斯ヨリ水素製造ニ就テ 米國ニ於ケル石油課税ニ就テ 石油瓦斯ノ重合	一二一 一	一二一 三	囑託 海軍書記 三井啓策 石丸五郎 石川三郎	囑託 海軍機關中佐 並河孝 武居常雄	同 囑託 三井啓策 西村等 波多野源太郎 佐々木和吉 勝部正	一二一 七	一二一 六	一二一 五	同	同

第三四號
 第三五號
 第三六號
 第三七號
 第三八號
 第三九號
 第四〇號
 第四一號
 第四二號
 第四三號
 第四四號
 第四五號
 第四六號
 第四七號
 第四八號
 第四九號
 第五〇號
 第五一號
 第五二號
 第五三號
 第五四號
 第五五號
 第五六號
 第五七號
 第五八號
 第五九號
 第六〇號
 第六一號
 第六二號
 第六三號
 第六四號
 第六五號
 第六六號
 第六七號
 第六八號
 第六九號
 第七〇號
 第七一號
 第七二號
 第七三號
 第七四號
 第七五號
 第七六號
 第七七號
 第七八號
 第七九號
 第八〇號
 第八一號
 第八二號
 第八三號
 第八四號
 第八五號
 第八六號
 第八七號
 第八八號
 第八九號
 第九〇號
 第九一號
 第九二號
 第九三號
 第九四號
 第九五號
 第九六號
 第九七號
 第九八號
 第九九號
 第一百號

第一九號	蘭領東印度ノ石油工業 ルーマニアノ石油工業 イラクノ石油工業	一一七 同
第二〇號	ヴェネツエラノ石油資源 印度ノ石油資源 ペルシヤ灣内パーレン島油田開發ノ 概況	一一九 同
第二一號	滿洲大豆ノ資源ト油坊業ノ概要 朝鮮ノ褐炭資源	一一九 同
第二二號	メキシコノ石油資源 本邦ノ魚油資源ト硬化油工業	一二〇 同
第二三號	支那ノ石炭資源ト其ノ鑛業ノ概要	一二二 同

(四) 判任官以上異動調

年月日	事	項	官	氏名
昭和一二四一	自今報酬年額千四百七拾圓ヲ給ス		囑	託藤本春季
四一八	海軍技師江口孝獨國出張不在中ヲ多ノール工場長代理ヲ命ス		海軍機關中佐	並河孝
"	海軍技師江口孝獨國出張不在中混炭重油工場長代理ヲ命ス		海軍機關少佐	鈴木俊郎
四二一	任海軍技師		海軍技師	吉弘太作
"	敘高等官七等		海軍技師	吉弘太作
"	賜八級俸		海軍技師	吉弘太作
"	補海軍燃料廠採炭部々員		勳七等	吉弘太作
"	敘從七位		勳七等	吉弘太作
四二二	依願免本官		海軍技師	吉弘太作
"	職務勉勵ニ付特ニ金千四百四拾壹圓ヲ賞賜ス			吉弘太作

四二七	研究科(第五班)係員職務執行ヲ命ス	技	生坂本貞彦
五二〇	通常物品(天然瓦斯實驗所用品)取扱主任ヲ命ス	海軍技師	藤尾 馨
六一	任海軍技手		坂本貞彦
"	給月俸七拾圓	海軍技手	坂本貞彦
"	海軍燃料廠附ヲ命ス	同	
六二	海軍艦政本部出仕兼海軍省軍需局々員海軍大學校教官補軍令部出仕兼海軍省出仕海軍燃料廠研究部々員 英國及獨國へ出張ヲ命ス	海軍機關中佐	横田 俊雄
六二	吳海軍々需部々員	海軍機關少佐	有本 寛
六二	補海軍燃料廠煉炭部々員兼研究部々員 海軍燃料廠製油部々員	海軍機關少佐	中筋 藤一
六二	兼補海軍燃料廠研究部々員		

四二七	研究科(第五班)係員職務執行ヲ命ス	技	生坂本貞彦
五二〇	通常物品(天然瓦斯實驗所用品)取扱主任ヲ命ス	海軍技師	藤尾 馨
六一	任海軍技手		坂本貞彦
"	給月俸七拾圓	海軍技手	坂本貞彦
"	海軍燃料廠附ヲ命ス	同	
六二	海軍艦政本部出仕兼海軍省軍需局々員海軍大學校教官補軍令部出仕兼海軍省出仕海軍燃料廠研究部々員 英國及獨國へ出張ヲ命ス	海軍機關中佐	横田 俊雄
六二	吳海軍々需部々員	海軍機關少佐	有本 寛
六二	補海軍燃料廠煉炭部々員兼研究部々員 海軍燃料廠製油部々員	海軍機關少佐	中筋 藤一
六二	兼補海軍燃料廠研究部々員		

六三	研究部附ヲ命ス 研究科(五班) 係員ヲ命ス	海軍 技手 坂本貞彦
六四	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セララル(昭和九年三月一日賞勳局)	海軍機關大佐 木梨律馬
六九	着任 專ラ兼務部ニ於テ服務スベシ	海軍機關少佐 有本 寬
"	混炭重油工場長兼實驗科(一班) 分擔研究科分擔ヲ命ス	同 同 右
"	石炭液化ニ關スル調査研究ニ從事スベシ	海軍機關少佐 中筋藤一
六九	兼混炭重油工場長ヲ免ス マタノール工場長兼研究科分擔混炭重油工場長	海軍 技師 江口 孝
六九	實驗科(五班) 分擔兼研究科分擔 兼混炭重油工場長代理ヲ免ス	海軍機關少佐 鈴木俊郎
六二八	第五回海軍勞働統計實地調査係長補助ヲ命ス	海軍機關大佐 木梨律馬

六三	研究部附ヲ命ス 研究科(五班) 係員ヲ命ス	海軍 技手 坂本貞彦
六四	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セララル(昭和九年三月一日賞勳局)	海軍機關大佐 木梨律馬
六九	着任 專ラ兼務部ニ於テ服務スベシ	海軍機關少佐 有本 寬
"	混炭重油工場長兼實驗科(一班) 分擔研究科分擔ヲ命ス	同 同 右
"	石炭液化ニ關スル調査研究ニ從事スベシ	海軍機關少佐 中筋藤一
六九	兼混炭重油工場長ヲ免ス マタノール工場長兼研究科分擔混炭重油工場長	海軍 技師 江口 孝
六九	實驗科(五班) 分擔兼研究科分擔 兼混炭重油工場長代理ヲ免ス	海軍機關少佐 鈴木俊郎
六二八	第五回海軍勞働統計實地調査係長補助ヲ命ス	海軍機關大佐 木梨律馬

八二八	第五回海軍勞働統計實地調査係員ヲ命ス	海軍機關中佐 並河 孝
"	第五回海軍勞働統計實地調査係員補助ヲ命ス	海軍技手 磯谷 延治
"	同 右	海軍技手 高橋 功夫
"	同 右	海軍技手 田島 悅郎
"	同 右	海軍技手 土井 茂
"	同 右	海軍技手 坂本 貞彦
"	同 右	技 生 近藤 一士
九三三	京都帝國大學ニ於テ九月三日附福岡縣江口孝ニ理學博士ノ學位ヲ授與セリ(文部省)	
九三〇	陸軍高等官四等	燃料研究所技師 並河 孝
"	賜六級俸	海軍技師 藤尾 馨
一〇一	兼製油部附ヲ命ス	海軍技手 高橋 功夫
"	見習職工教習所教員ヲ命ス	海軍技手 坂本 貞彦
一一五	兼製油部附ヲ命ス	海軍技手 土井 茂

八二八	第五回海軍勞働統計實地調査係員ヲ命ス	海軍機關中佐 並河 孝
"	第五回海軍勞働統計實地調査係員補助ヲ命ス	海軍技手 磯谷 延治
"	同 右	海軍技手 高橋 功夫
"	同 右	海軍技手 田島 悅郎
"	同 右	海軍技手 土井 茂
"	同 右	海軍技手 坂本 貞彦
"	同 右	技 生 近藤 一士
九三三	京都帝國大學ニ於テ九月三日附福岡縣江口孝ニ理學博士ノ學位ヲ授與セリ(文部省)	
九三〇	陸軍高等官四等	燃料研究所技師 並河 孝
"	賜六級俸	海軍技師 藤尾 馨
一〇一	兼製油部附ヲ命ス	海軍技手 高橋 功夫
"	見習職工教習所教員ヲ命ス	海軍技手 坂本 貞彦
一一五	兼製油部附ヲ命ス	海軍技手 土井 茂

一 二 一	着任	貴官ハ研究部長及製油部長ノ命ヲ承ケ主トシテ出師準備ノ見地ヨリ天然石油及人工石油ノ調達並ニ製造ニ關スル調査ニ従事スベシ(廠長)	海軍少將 野村 將三
一 二 一	兼補海軍燃料廠製油部々員	海軍燃料廠研究部々員	海軍機關大佐 榎本 隆一郎
一 二 一	補横須賀海軍艦船部長	海軍燃料廠研究部長	海軍少將 木梨 律馬
一 二 一	補海軍燃料廠研究部長	聯合艦隊機關長兼第一艦隊	海軍少將 野村 將三
一 二 一	任海軍少將	海軍機關大佐	木梨 律馬
一 二 一	メタノール工場係員職務執行ヲ命ス	技 生 御手洗 滋	

一 二 一	着任	貴官ハ研究部長及製油部長ノ命ヲ承ケ主トシテ出師準備ノ見地ヨリ天然石油及人工石油ノ調達並ニ製造ニ關スル調査ニ従事スベシ(廠長)	海軍少將 野村 將三
一 二 一	兼補海軍燃料廠製油部々員	海軍燃料廠研究部々員	海軍機關大佐 榎本 隆一郎
一 二 一	補横須賀海軍艦船部長	海軍燃料廠研究部長	海軍少將 木梨 律馬
一 二 一	補海軍燃料廠研究部長	聯合艦隊機關長兼第一艦隊	海軍少將 野村 將三
一 二 一	任海軍少將	海軍機關大佐	木梨 律馬
一 二 一	メタノール工場係員職務執行ヲ命ス	技 生 御手洗 滋	

一六五	退 廳	海軍少將 木 梨 律 馬
一六一五	兼補海軍燃料廠研究部々員 海軍航空本部技術部々員兼海軍航空廠發動機部々員海軍機關大佐	嘉 納 吉 彦
一六二〇	海軍燃料廠ニ於ケル研究事務囑託ノ報酬トシテ金百圓ヲ贈與ス	大 東 京 帝 國 大 學 教 授 大 島 義 清
一六二四	京都帝國大學へ派遣中ノ處歸着	囑 託 山 岡 篤 史
一六一一	吳鎮守府附被仰付 軍令部出仕兼海軍省出仕海軍燃料廠研究部々員	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六一八	研究部長ノ命ヲ承ケ服務スベシ	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六二五	實驗科(三班)分擔ヲ命ス	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六二五	混炭重油工場長兼實驗科(一班)分擔研究科分擔	海 軍 機 關 少 佐 有 本 寬
一六二七	兼實驗科(一班)主任ヲ命ス 班)主任ヲ命ス	研究部長承命服務 海軍機關中佐 横 田 俊 雄

一六二五	退 廳	海軍少將 木 梨 律 馬
一六一五	兼補海軍燃料廠研究部々員 海軍航空本部技術部々員兼海軍航空廠發動機部々員海軍機關大佐	嘉 納 吉 彦
一六二〇	海軍燃料廠ニ於ケル研究事務囑託ノ報酬トシテ金百圓ヲ贈與ス	大 東 京 帝 國 大 學 教 授 大 島 義 清
一六二四	京都帝國大學へ派遣中ノ處歸着	囑 託 山 岡 篤 史
一六一一	吳鎮守府附被仰付 軍令部出仕兼海軍省出仕海軍燃料廠研究部々員	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六一八	研究部長ノ命ヲ承ケ服務スベシ	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六二五	實驗科(三班)分擔ヲ命ス	海 軍 機 關 中 佐 横 田 俊 雄
一六二五	混炭重油工場長兼實驗科(一班)分擔研究科分擔	海 軍 機 關 少 佐 有 本 寬
一六二七	兼實驗科(一班)主任ヲ命ス 班)主任ヲ命ス	研究部長承命服務 海軍機關中佐 横 田 俊 雄

イ) 雇員以下異動調

計	見習職工	見習職工成業者	其ノ他	女學校	中學校	工業學校	高等工業	帝國大學	雇員		備入	備出
									職工	職夫		
六			一				四	一	三	三		
四九	九	七	一一	六	一	九	三	三				
二二			一一	二		八						
	二名煉炭部 所屬變更ヨリ		職工二名煉炭部 ヨリ所屬變更	職夫一名煉炭部 ヨリ所屬變更								
四						三	四					
三三	一	二	五	二	一	一六	五	一				
一一			一一	七	一	二						
			職工二名製油部へ 所屬變更		職工一名製油部へ 所屬變更	雇員一名職工八名 製油部へ所屬變更	雇員二名職工一名 製油部へ所屬變更					

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

見習職工成業後誓約満限	煉炭部ヨリ所屬變更	二學年ニ進學	見習職工成業ニ付實驗工ニ採用
一五〇	一五五	五〇	一一〇
分析工	實驗工	見習職工	見習職工
守田秋藏	松本清	倉橋義男	三牧朝市
		倉橋義男	松本利英
		中村瀧一	原田勳
		佐古勇	三牧朝市
		木村政雄	松永三男
		衆重鐵雄	堀江弘道
		堀江弘道	椎木喜代人

見習職工成業後誓約満限	煉炭部ヨリ所屬變更	二學年ニ進學	見習職工成業ニ付實驗工ニ採用
一五〇	一五五	五〇	一一〇
分析工	實驗工	見習職工	見習職工
守田秋藏	松本清	倉橋義男	三牧朝市
		倉橋義男	松本利英
		中村瀧一	原田勳
		佐古勇	三牧朝市
		木村政雄	松永三男
		衆重鐵雄	堀江弘道
		堀江弘道	椎木喜代人

一、五二一	職夫ヨリ職工ニ採用	一	二〇	山本勝美
"	"	八〇	分析工	佐伯貞子
"	"	八〇	記録工	山崎淑枝
"	"	八〇	分析工	國澤ハルエ
"	"	八〇	"	仲子久江
"	"	八〇	"	不破勝澄子
五二〇	實驗工ニ工名變更		分析工	伊賀崎 豊
"	"		"	原田梅雄
六一	身分變更		技生	坂本貞彦
六一七	試備入(實驗工)	一六〇		戀田忠雄
一、七七一	技生ヲ命シ月給金六十七圓五十錢ヲ給ス	二七〇	實驗手	新庄盈一
"	"	二七〇	"	若菜 章
"	月給金五十五圓ヲ給ス	二二〇	"	横尾常雄
"	"	二二〇	"	原田 貞

一、五二一	職夫ヨリ職工ニ採用	一	二〇	山本勝美
"	"	八〇	分析工	佐伯貞子
"	"	八〇	記録工	山崎淑枝
"	"	八〇	分析工	國澤ハルエ
"	"	八〇	"	仲子久江
"	"	八〇	"	不破勝澄子
五二〇	實驗工ニ工名變更		分析工	伊賀崎 豊
"	"		"	原田梅雄
六一	身分變更		技生	坂本貞彦
六一七	試備入(實驗工)	一六〇		戀田忠雄
一、七七一	技生ヲ命シ月給金六十七圓五十錢ヲ給ス	二七〇	實驗手	新庄盈一
"	"	二七〇	"	若菜 章
"	月給金五十五圓ヲ給ス	二二〇	"	横尾常雄
"	"	二二〇	"	原田 貞

一六	七二八	依願解傭	一七〇	實驗工	林照美
〃	八五	彙研究部構内係附ヲ命ス		技生	山縣仁助
〃	八七	婿養子縁組ニ依リ河内山ト改姓		實驗工	陶山悟
〃	八一〇	試傭入(實驗工)	一四〇		小田正男
〃	八二七	職夫(記録工)ニ傭入	八〇		藤村千代子
〃	八三〇	本傭入	一四〇	實驗工	小田正男
一六	九一	勤務演習ノ爲二十一日間野砲兵第五聯隊へ 應召		技生	伊賀崎忠雄
〃		步兵第四十二聯隊へ應召			原寅市
〃	九八	工務規則第二十八條第八號前段ニ依リ解傭	五五	見習職工	木村政雄
〃		演習召集ノ爲十四日間步兵第四十二聯隊へ 應召		技生	山田隆信
〃	九二二	應召中ノ處解除		技生	原寅市
〃					山田隆信
〃					伊賀崎忠雄

一六	七二八	依願解傭	一七〇	實驗工	林照美
〃	八五	彙研究部構内係附ヲ命ス		技生	山縣仁助
〃	八七	婿養子縁組ニ依リ河内山ト改姓		實驗工	陶山悟
〃	八一〇	試傭入(實驗工)	一四〇		小田正男
〃	八二七	職夫(記録工)ニ傭入	八〇		藤村千代子
〃	八三〇	本傭入	一四〇	實驗工	小田正男
一六	九一	勤務演習ノ爲二十一日間野砲兵第五聯隊へ 應召		技生	伊賀崎忠雄
〃		步兵第四十二聯隊へ應召			原寅市
〃	九八	工務規則第二十八條第八號前段ニ依リ解傭	五五	見習職工	木村政雄
〃		演習召集ノ爲十四日間步兵第四十二聯隊へ 應召		技生	山田隆信
〃	九二二	應召中ノ處解除		技生	原寅市
〃					山田隆信
〃					伊賀崎忠雄

"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	17101*	研究部附ヲ命ス			技生	官川康壽
"	"	"	"	"	1011	製油部へ所屬變更		一八〇	實驗工	"	森田彰久							
"	"	"	"	"	1012	試傭入(實驗工)		一四五	"	"	今西宗八							
"	"	"	"	"	1013	依願解傭		一四五	實驗工	"	中村昇							
"	"	"	"	"	1014	職夫(實驗工)ニ傭入		一四五		"	深見保							
"	"	"	"	"	1015	衆製油部附ヲ命ス			技生	"	伊藤輔							
"	"	"	"	"						"	御手洗滋							
"	"	"	"	"						"	山本正雄							
"	"	"	"	"						"	橘高彌市							
"	"	"	"	"						"	新庄盈一							
"	"	"	"	"						"	山本申							

17101*	研究部附ヲ命ス			技生	官川康壽
1011	製油部へ所屬變更		一八〇	實驗工	森田彰久
1012	試傭入(實驗工)		一四五		今西宗八
1013	依願解傭		一四五	實驗工	中村昇
1014	職夫(實驗工)ニ傭入		一四五		深見保
1015	衆製油部附ヲ命ス			技生	伊藤輔
					御手洗滋
					山本正雄
					橘高彌市
					新庄盈一
					山本申

一六二六	依願解備	八〇	分析工	國澤ハルエ
一六二五	自十一月五日 九州帝國大學工學部へ出張 至十一月九日		實驗工	伊ヶ崎 作一
一六一一	多ノール工場係員職務執行ヲ命ス		技 生	御手洗 滋
一六一二	試備入（分析工）	一四五		津田梅次
	昭和十一年第二回専門學校入學者試験檢定 ニ合格		實驗工	市川 陸
一六一五	本備入	一四五	實驗工	有田四郎
		一四五		中村 昇
一六二〇	工務規則第二十八條第八號前段ニ依リ解備	一五〇		清水達雄
一六二一	職夫ヨリ職工ニ採用（試備入）	一三五		中村民夫
	實驗手ヲ命ス			叶原幸一
	實驗工ニ工名變更		分析工	佐々木 龍一
一六二四	新潟方面へ出張（五泊六日）		記録工	武居常雄
一六二六	期間滿了ニ依リ解備	八〇	職 夫	藤村千代子

一六二七	依願解備	八〇	分析工	國澤ハルエ
一六二八				
一六二九				
一六三〇				
一六三一				
一六三二				
一六三三				
一六三四				
一六三五				
一六三六				
一六三七				
一六三八				
一六三九				
一六四〇				
一六四一				
一六四二				
一六四三				
一六四四				
一六四五				
一六四六				
一六四七				
一六四八				
一六四九				
一六五〇				

一〇五	職夫	大森國政	五〇	職夫內規第八條第一項第十一號ニ依リ解備	一〇三〇
一三五	職夫	戸倉堯	一三五	職夫(實驗工)ニ備入	一〇三二
一三五	職夫	藤井英久	五〇	(雜工)ニ備入	一〇三六
一七五	實驗工	岩本勝美	五〇	"	"
一八五	記錄工	山縣敷馬	五〇	"	"
一七五	實驗工	原田祐	一八五	婿養子縁組ニ付大塚ト改姓	一〇三二
一三五	職夫	福田清	一七五	入夫婚姻ニ付長弘ト改姓	一〇三〇
一三五	職夫	山田俊二	一三五	依願解備	一〇三九
一三五	職夫	笹田辰藏	一三五	職夫(實驗工)ニ備入	一〇三〇
一〇五	記錄工	安野コズエ	一〇五	依願解備	一〇三一

八〇	實驗工	大森國政	一〇三〇	職夫內規第八條第一項第十一號ニ依リ解備
一三五	職夫	戸倉堯	一〇三二	職夫(實驗工)ニ備入
五〇	(雜工)	藤井英久	一〇三六	(雜工)ニ備入
一八五	記錄工	山縣敷馬	"	"
一七五	實驗工	原田祐	一〇三二	婿養子縁組ニ付大塚ト改姓
一七五	實驗工	福田清	一〇三〇	入夫婚姻ニ付長弘ト改姓
一三五	職夫	山田俊二	一〇三九	依願解備
一三五	職夫	笹田辰藏	一〇三〇	職夫(實驗工)ニ備入
一〇五	記錄工	安野コズエ	一〇三一	依願解備

四早運書

延人員	一〇	一四	一九	一〇	一九	二三	二五	一三	一一	五	六	二三	一七八
延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
延人員	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

延人員

月別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	一〇	一四	一九	一〇	一九	二三	二五	一三	一一	五	六	二三	一七八

昭和十一年度講演並ニ雜誌會調

(1) 部内講演

回数	施行年月日	題目	講演者
一	昭和二一六〇	燃燒機構トオクタン價ニ就テ	技師 秋田 穰
二	" 二一六四	四エチル鉛ノ效果ニ就テ	技手 磯谷 延治
三	" 二一六二	アンチノツク燃料ノ混油效果	嘱託 三井 啓策
	"	混炭油ノ安定性ニ就テ	嘱託 板倉 武雄
四	" 二一五五	乾溜加熱速度ガ各種石炭ノ生成ガス性狀並生成物收量ニ及ボス影響	機關中佐 並河 孝
	"	罐ノ震動燃燒ニ就テ	技手 磯谷 延治
	"	混炭油ニ關スル研究	嘱託 板倉 武雄

(2) 部外講演

場所	講演年月日	題目	講演者
東北帝國大學	昭和二一四三	ヘキサチカソノ熱分解ニ就テ	技師 山口 昌三

場 所	講演年月日	題 目	講 演 者
東北帝國大學	昭和二、四、三	ハイドロロイフエニールベンゼンノ合成ト其ノ粘調性ニ就テ	技 師 景 平 一 雄
東京帝國大學	" 一、四、五	石油ノ水素接觸分解ニ就テ	囑 託 三 井 啓 策
"	" 一、五、九	無聲放電ニ依ルメタンノ酸化ニ就テ	囑 託 藤 本 春 季
徳山海軍共済組 合會館	" 一、四、七	石炭ノ完全瓦斯化ニ就テ	機 關 中 佐 並 河 孝
九州帝國大學	" 一、二、六	燃料ノ合利の利用ニ就テ	技 師 秋 田 穰
"	" 一、二、八	燃焼機構ヨリ見タル炭化水素ノ化學構造トオクタン價ニ就テ	技 師 秋 田 穰
廣島中央放送局	" 一、二、五	海軍燃料ノ話	機 關 中 佐 並 河 孝
徳山海軍共済組 合會館	" 一、二、三	最近ノ獨逸ニ於ケル燃料工業ニ就テ	機 關 中 佐 横 田 俊 雄
"	"	分解揮發油ノ水素添加ニ就テ	囑 託 藤 本 春 季

(ハ) 特殊講演

研究部講演室	講演年月日	題 目	講 演 者
昭和二、六、五	ダイゼル機關ニ就テ	艦政本部々員 機關少佐 上田 博	

講演者名

講演者名	講演年月日	講演題目	講演場所
景平一雄	昭和二、四、三	ハイドロロイフエニールベンゼンノ合成ト其ノ粘調性ニ就テ	東北帝國大學
三井啓策	一、四、五	石油ノ水素接觸分解ニ就テ	東京帝國大學
藤本春季	一、五、九	無聲放電ニ依ルメタンノ酸化ニ就テ	"
並河孝	一、四、七	石炭ノ完全瓦斯化ニ就テ	徳山海軍共済組合會館
秋田穰	一、二、六	燃料ノ合利の利用ニ就テ	九州帝國大學
秋田穰	一、二、八	燃焼機構ヨリ見タル炭化水素ノ化學構造トオクタン價ニ就テ	"
並河孝	一、二、五	海軍燃料ノ話	廣島中央放送局
横田俊雄	一、二、三	最近ノ獨逸ニ於ケル燃料工業ニ就テ	徳山海軍共済組合會館
藤本春季	"	分解揮發油ノ水素添加ニ就テ	"

研究部講演室
 昭和二十二年
 歐洲液化關係見聞事項ニ就テ
 東京帝國大學 教授 大島 義清
 海軍燃料廠 研究部 田 俊雄

研究部講演室	昭和二十二年	歐洲液化關係見聞事項ニ就テ	東京帝國大學 教授 大島 義清
"	一二三七	歐米視察談	海軍燃料廠 研究部 田 俊雄

(*) 講演題目

谷會論	一二三二	谷會論	谷會論
谷會論	一二三三	谷會論	谷會論
谷會論	一二三四	谷會論	谷會論
谷會論	一二三五	谷會論	谷會論
谷會論	一二三六	谷會論	谷會論
谷會論	一二三七	谷會論	谷會論
谷會論	一二三八	谷會論	谷會論
谷會論	一二三九	谷會論	谷會論
谷會論	一二四〇	谷會論	谷會論
谷會論	一二四一	谷會論	谷會論
谷會論	一二四二	谷會論	谷會論
谷會論	一二四三	谷會論	谷會論
谷會論	一二四四	谷會論	谷會論
谷會論	一二四五	谷會論	谷會論
谷會論	一二四六	谷會論	谷會論
谷會論	一二四七	谷會論	谷會論
谷會論	一二四八	谷會論	谷會論
谷會論	一二四九	谷會論	谷會論
谷會論	一二五〇	谷會論	谷會論

九二	昭和二二、七	高温乾溜ノフリースペースノ效果 吃水線ノ腐蝕	分析工 藤中峯登 實驗工 山本誠治
		鋼ノ窒素硬化ニ依ル寸法ノ變化	技 生 勝屋 節
		チクロペンタン及パラフィンノ芳香族化ニ就テ	技 生 石田 權一
		壓縮空氣ハ何故爆發スルカ	御手洗 滋
		昭和十一年八月京大夏季講習會講演報告	
		高度真空ノ發生及測定	實驗手 高村 始
		高度真空ノ化學ニ於ケル應用	實驗工 森田 彰久
九三	昭和二二、九	壓力交換ニ依ル Energy ノ回收裝置ニ就テ Engine Carbon	〃 山中 幾雄
		溶劑ニ依ル石炭液化法	〃 磯濱 松一
		低温タールノフエノール類ニ就テ	技 生 今住 信雄
		北鮮ニ於ケル化學工業ニ就テ	機關少佐 鈴木 俊郎
九四	昭和二二、八	潤滑油ノ化學的成分ニ就テ	實驗工 明穗 登

九三	昭和二二、九	壓力交換ニ依ル Energy ノ回收裝置ニ就テ Engine Carbon	〃 磯濱 松一
		溶劑ニ依ル石炭液化法	〃 磯濱 松一
		低温タールノフエノール類ニ就テ	技 生 今住 信雄
		北鮮ニ於ケル化學工業ニ就テ	機關少佐 鈴木 俊郎
九四	昭和二二、八	潤滑油ノ化學的成分ニ就テ	實驗工 明穗 登

九七	昭和二三二	一〇〇オクタタン價揮發油トイソペンタンニ就テ	實驗手 西田 安吉
		白熱電灯ノ使用電壓ニ就テ	技 生 戸 倉 孝 之
		When is a desiccator	實驗工 西郷 岩 吉
		液体アンモニア曹達法ニ依ル有機硫黄ノ測定法ニ就テ	技 生 大 崎 勇
		ノツク率ノ正確度ニ就テ	和 田 武 男
		高壓水素下ニ於ケル重環炭化水素ノ化學反應性	研究助手 萩 原 基 衛
		ロイシンヨリニ・四デメチルペンテンニノ合成	囑 託 山 岡 篤 史
		一〇〇オクタント高級アルコールニ就テ	三 井 啓 策
		燃料トシテノタールニ就テ	分析工 守 田 秋 藏
		炭化水素ノ水素添加ニ關スル理論的及技術的基礎ニ就テ	實驗工 佐々木 和 吉
		Paraffin Hydrocarbon Isomerisationニ就テ	實驗手 高 村 始
		高揮發可燃性液体ノ燃燒装置ニ就テ	技 生 神 田 福 治
		合成潤滑油ニ就テ	技 生 若 菜 章
		アセチレンノ利用ニ就テ	技 師 山 口 昌 三

九五	昭和二三二	一〇〇オクタタン價揮發油トイソペンタンニ就テ	實驗手 西田 安吉
		白熱電灯ノ使用電壓ニ就テ	技 生 戸 倉 孝 之
		When is a desiccator	實驗工 西郷 岩 吉
		液体アンモニア曹達法ニ依ル有機硫黄ノ測定法ニ就テ	技 生 大 崎 勇
		ノツク率ノ正確度ニ就テ	和 田 武 男
		高壓水素下ニ於ケル重環炭化水素ノ化學反應性	研究助手 萩 原 基 衛
		ロイシンヨリニ・四デメチルペンテンニノ合成	囑 託 山 岡 篤 史
		一〇〇オクタント高級アルコールニ就テ	三 井 啓 策
		燃料トシテノタールニ就テ	分析工 守 田 秋 藏
		炭化水素ノ水素添加ニ關スル理論的及技術的基礎ニ就テ	實驗工 佐々木 和 吉
		Paraffin Hydrocarbon Isomerisationニ就テ	實驗手 高 村 始
		高揮發可燃性液体ノ燃燒装置ニ就テ	技 生 神 田 福 治
		合成潤滑油ニ就テ	技 生 若 菜 章
		アセチレンノ利用ニ就テ	技 師 山 口 昌 三

六受特許調

特許年月日	特許番號	名	稱	發明者
大正二二〇二二	四三七八八	石炭ヨリ液狀燃料ヲ製造スル方法		下田健市
一四九一〇	六六六六一	動植物油脂ノ石油化ト油頁岩ノ乾溜トヲ同時ニ行フ方法		下田健市
一五七七八	六八八五六	油頁岩ノ乾溜法ニ於ケル改良		下田健市
昭和二二二二	七〇七七〇	硫黄ヲ含有セザルナフサリンヲ製造スル方法		藤尾 誓
二二二四	七〇八〇四	油類脫水方法		小川 亨
二八二六	七三二一七	引火點高ク且粘度小ナル變壓器油ノ製造法		別府良三
四一八	七六八九八	石油ピツ子ノ精製法		別府良三
四三七	八〇八四三	石炭液化方法		小川 亨
四三二五	八〇九二八	船底塗料製造法		別府良三
四六五	八二〇二五	酒精變性法		江口 孝 松尾直士

大正二二〇二二 石炭ヨリ液狀燃料ヲ製造スル方法 下田健市

一四九一〇 動植物油脂ノ石油化ト油頁岩ノ乾溜トヲ同時ニ行フ方法 下田健市

一五七七八 油頁岩ノ乾溜法ニ於ケル改良 下田健市

昭和二二二二 硫黄ヲ含有セザルナフサリンヲ製造スル方法 藤尾 誓

二二二四 油類脫水方法 小川 亨

二八二六 引火點高ク且粘度小ナル變壓器油ノ製造法 別府良三

四一八 石油ピツ子ノ精製法 別府良三

四三七 石炭液化方法 小川 亨

四三二五 船底塗料製造法 別府良三

四六五 酒精變性法 江口 孝
松尾直士

昭和 四七二六	八二五八〇	メタン瓦斯ヨリ水素及一酸化炭素ヲ製造スル方法	藤尾 馨
四六一一	八三一九八	潤滑油ノ性質ヲ優良ナラシムル方法	下田 健市
兵二〇二	八六五五五	石炭ノ乾溜方法	並河 孝 島村 浩
兵二二八	八八九〇五	石炭タール燻油等ヲ重要ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田 俊雄
七三二四	九三二四〇	炭化水素ヨリ水素ヲ製造スル方法	江口 孝
七五二六	九三九七四 (秘密特許)	水素及一酸化炭素含有瓦斯ヨリメチルアルコール合成 用觸媒ノ製法	江口 孝
七六三九	九六四六一	石炭類ヲ有用ナル液体ニ變化スル方法	小川 亨 高橋 功夫
七七二六	九六六五一 (秘密特許)	頁岩油重油石炭タール及其等ノ蒸溜生成成分ヨリエチレン 瓦斯ヲ製造スル方法	藤本 春季
七七二九	九六七七一	石炭タール、ピッチ、アスファルト及之ニ類スル瀝青物 質等ヨリ重要ナル液体炭化水素ヲ製造スル方法	山口 昌三
七八二二	九七〇三二	含油廢液ヨリ油分回收方法	小川 亨
七九三〇	九七三六九	洗炭法	住本 誠治

昭和 四七二六	八二五八〇	メタン瓦斯ヨリ水素及一酸化炭素ヲ製造スル方法	藤尾 馨
四六一一	八三一九八	潤滑油ノ性質ヲ優良ナラシムル方法	下田 健市
兵二〇二	八六五五五	石炭ノ乾溜方法	並河 孝 島村 浩
兵二二八	八八九〇五	石炭タール燻油等ヲ重要ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田 俊雄
七三二四	九三二四〇	炭化水素ヨリ水素ヲ製造スル方法	江口 孝
七五二六	九三九七四 (秘密特許)	水素及一酸化炭素含有瓦斯ヨリメチルアルコール合成 用觸媒ノ製法	江口 孝
七六三九	九六四六一	石炭類ヲ有用ナル液体ニ變化スル方法	小川 亨 高橋 功夫
七七二六	九六六五一 (秘密特許)	頁岩油重油石炭タール及其等ノ蒸溜生成成分ヨリエチレン 瓦斯ヲ製造スル方法	藤本 春季
七七二九	九六七七一	石炭タール、ピッチ、アスファルト及之ニ類スル瀝青物 質等ヨリ重要ナル液体炭化水素ヲ製造スル方法	山口 昌三
七八二二	九七〇三二	含油廢液ヨリ油分回收方法	小川 亨
七九三〇	九七三六九	洗炭法	住本 誠治

昭和七〇二六	九七九六二	高壓装入唧筒	横田俊雄
八一九	九八九五七	炭化水素瓦斯ノ分解方法	並河孝
八一八	九九〇九八	石炭タール頁岩油鑛油等ヲ有用ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田俊雄
〃	九九〇九九	石炭液化原料處理法	住本誠治
八一六	九九四〇一	合成メタノール精製法	江口孝
〃	九九七二七	頁岩油石炭低溫タール及分解蒸溜油等ノ不安定ナル炭化水素ヲ安定ナル炭化水素ニ變化スル方法	山口昌三
〃	九九七二八	石炭液化原料ト處理法	藤井軍治
〃	九九七二九	遠心分離器ノ改良	住本誠治
八七五	一〇一八五〇	石炭液化方法	小川亨
八七五	(秘密特許)	石炭完全瓦斯化ニ於ケルタールノ分解方法	高橋功夫
八七二七	一〇一九九九	石炭完全瓦斯化ニ於ケルタールノ分解方法	並河孝

昭和七〇二六	九七九六二	高壓装入唧筒	横田俊雄
八一九	九八九五七	炭化水素瓦斯ノ分解方法	並河孝
八一八	九九〇九八	石炭タール頁岩油鑛油等ヲ有用ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田俊雄
〃	九九〇九九	石炭液化原料處理法	住本誠治
八一六	九九四〇一	合成メタノール精製法	江口孝
〃	九九七二七	頁岩油石炭低溫タール及分解蒸溜油等ノ不安定ナル炭化水素ヲ安定ナル炭化水素ニ變化スル方法	山口昌三
〃	九九七二八	石炭液化原料ト處理法	藤井軍治
〃	九九七二九	遠心分離器ノ改良	住本誠治
八七五	一〇一八五〇	石炭液化方法	小川亨
八七五	(秘密特許)	石炭完全瓦斯化ニ於ケルタールノ分解方法	高橋功夫
八七二七	一〇一九九九	石炭完全瓦斯化ニ於ケルタールノ分解方法	並河孝

昭和 八二〇七	一〇三〇四七	石炭完全瓦斯化方法	並河 孝
八二一〇	一〇三〇九一	高壓塞止弁	横田 俊雄
〃	一〇三〇九二	合成メタノール蒸溜法ノ改良	田島 悦郎
九四二	一〇五五八八	炭酸瓦斯及炭化水素瓦斯ノ分解方法	江口 孝
九六一五	一〇六五七二	メタノール合成用反應筒外熱裝置	江口 孝
九二〇四	一〇九二六三	アセチレンヨリベンゾール、トルオール等ノ芳香族炭化水素ノ合成方法	藤尾 誓
九二一	一〇八三二一	石炭類又ハコークス等ヨリ得タル瓦斯ノ完全脱硫法	江口 孝
〃	一〇八三二二	水性瓦斯類變性法ノ改良	〃
九二一三	一〇九四一三	アセチレン瓦斯分離濃縮法	藤尾 誓
九二一五	一〇九四二二	メタンヨリホルマリン蟻酸等ノ製造法	藤本 春季

八二〇七	一〇三〇四七	石炭完全瓦斯化方法	並河 孝
八二一〇	一〇三〇九一	高壓塞止弁	横田 俊雄
〃	一〇三〇九二	合成メタノール蒸溜法ノ改良	田島 悦郎
九四二	一〇五五八八	炭酸瓦斯及炭化水素瓦斯ノ分解方法	江口 孝
九六一五	一〇六五七二	メタノール合成用反應筒外熱裝置	江口 孝
九二〇四	一〇九二六三	アセチレンヨリベンゾール、トルオール等ノ芳香族炭化水素ノ合成方法	藤尾 誓
九二一	一〇八三二一	石炭類又ハコークス等ヨリ得タル瓦斯ノ完全脱硫法	江口 孝
〃	一〇八三二二	水性瓦斯類變性法ノ改良	〃
九二一三	一〇九四一三	アセチレン瓦斯分離濃縮法	藤尾 誓
九二一五	一〇九四二二	メタンヨリホルマリン蟻酸等ノ製造法	藤本 春季

昭和九二二二	一〇八五三四	イソブレン及イソブレン類似ノ化合物ヲ含ム合成ゴム用原料ノ製造法	藤本春季
一〇八二	一〇九四八八	發熱反應ヲ誘導スル觸媒ノ保持裝置	江口孝
	一〇九四九〇	石炭褐炭タール頁岩油鑛油其ノ他之ニ類スル瀝青物質ヲ重要ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田俊雄
一〇九二	一〇九四九一	炭粉ヨリ活性炭素ヲ製造スル方法	並河報一
一〇九四〇〇	一一〇三一五	高壓高溫用填座	横田俊雄
一〇九四一〇	一一〇三二六	混炭油製造法 (其ノ二)	住本誠治
一〇九四二五	一一〇三二八	メタンヨリチホルマルパーオキシッドヒドライトノ製造法	藤本春季
一〇九四三九	一一〇六二四	混炭油製造法	住本誠治
一〇九四九	一一〇五八〇	四エチル鉛安定劑	山口昌三
一〇九四六	一一〇七〇五	自働減壓唧筒裝置	横田俊雄 中村正郎

昭和九二二二	一〇八五三四	イソブレン及イソブレン類似ノ化合物ヲ含ム合成ゴム用原料ノ製造法	藤本春季
一〇八二	一〇九四八八	發熱反應ヲ誘導スル觸媒ノ保持裝置	江口孝
	一〇九四九〇	石炭褐炭タール頁岩油鑛油其ノ他之ニ類スル瀝青物質ヲ重要ナル液狀生成物ニ變ズル方法	横田俊雄
一〇九二	一〇九四九一	炭粉ヨリ活性炭素ヲ製造スル方法	並河報一
一〇九四〇〇	一一〇三一五	高壓高溫用填座	横田俊雄
一〇九四一〇	一一〇三二六	混炭油製造法 (其ノ二)	住本誠治
一〇九四二五	一一〇三二八	メタンヨリチホルマルパーオキシッドヒドライトノ製造法	藤本春季
一〇九四三九	一一〇六二四	混炭油製造法	住本誠治
一〇九四九	一一〇五八〇	四エチル鉛安定劑	山口昌三
一〇九四六	一一〇七〇五	自働減壓唧筒裝置	横田俊雄 中村正郎

昭和六二一	一〇八三二	石炭類又ハコークス等ヨリ得タル瓦斯ノ安全脱硫法	江口 孝
一六二九	(秘) 二六二六六 (密)	電氣加熱装置	横田 俊雄
一六二三	(秘) 二一八七六五 (密)	水素添加蒸溜方法	横田 俊雄
一六三三	二一八七六〇	高壓高温用端子製造方法	横田 俊雄 田島 悦郎
一〇二七	(秘) 一〇九五三 (密)	メタノール合成用原料瓦斯ノ直接加熱用電熱体ノ製法	江口 孝
備考	特許出願中ノモノハ掲記セズ		

昭和三三	一〇八三二	石炭類又ハコークス等ヨリ得タル瓦斯ノ安全脱硫法	江口 孝
昭和三三	(秘) 二六二六六 (密)	電氣加熱装置	横田 俊雄
昭和三三	(秘) 二一八七六五 (密)	水素添加蒸溜方法	横田 俊雄
昭和三三	二一八七六〇	高壓高温用端子製造方法	横田 俊雄 田島 悦郎
昭和三三	(秘) 一〇九五三 (密)	メタノール合成用原料瓦斯ノ直接加熱用電熱体ノ製法	江口 孝
昭和三三	特許出願中ノモノハ掲記セズ		

一〇 善行及受罰調

(1) 善行表彰

昭和二十一年	五月	十日	田中	善行	...
昭和二十一年	六月	十五日	山田	善行	...
昭和二十一年	七月	二十日	佐藤	善行	...
昭和二十一年	八月	二十五日	鈴木	善行	...
昭和二十一年	九月	三十日	高橋	善行	...

年月日	理	由	職名	氏名
昭和二十一年	豪雨中時間外出廠シ使用機械ノ損害ヲ皆無ナラシメ 實驗作業ヲ支障ナカラシメタリ		實驗工	友澤常雄

(2) 受罰者

年月日	受罰	理	由	職名	氏名
昭和二十一年	禁足五日	火氣取締ニ關シ周到ナル監督不行届		技生	室本甚吉

- 六〇 研究指導ノ爲小松囑託來部
- 六一 小川商工大臣、法制局人江參事官、大場參事官、原田福岡鑛山監督局長
- 六二 細谷軍需局長第二課長來部
- 六四 上田軍需局長來部
- 六五 實驗科第一班新築實驗場ニ移轉ス
- 六七 第四回混炭油試焚實施
- 七三 研究指導ノ爲小松囑託來廠
- 七九 陸會夏季慰安大會ヲ虹ヶ濱ニ於テ開催ス
- 七二 細谷軍需局長第二課長來部
- 〃 荒天準備
- 七五 本日ヨリ八月八日迄水性瓦斯發生裝置試運轉施行
- 八〇 當部從業員ニ對シ化學、機械、英語ノ考查ヲ實施ス
- 八三 研究部長室ニ於テ午前九時ヨリ揮發油規格改正案ニ關スル會議開催
- 八八 研究指導ノ爲小松囑託來部

六〇 研究指導ノ爲小松囑託來部
 六一 小川商工大臣、法制局人江參事官、大場參事官、原田福岡鑛山監督局長
 六二 細谷軍需局長第二課長來部
 六四 上田軍需局長來部
 六五 實驗科第一班新築實驗場ニ移轉ス
 六七 第四回混炭油試焚實施
 七三 研究指導ノ爲小松囑託來廠
 七九 陸會夏季慰安大會ヲ虹ヶ濱ニ於テ開催ス
 七二 細谷軍需局長第二課長來部
 〃 荒天準備
 七五 本日ヨリ八月八日迄水性瓦斯發生裝置試運轉施行
 八〇 當部從業員ニ對シ化學、機械、英語ノ考查ヲ實施ス
 八三 研究部長室ニ於テ午前九時ヨリ揮發油規格改正案ニ關スル會議開催
 八八 研究指導ノ爲小松囑託來部

一三六 御用納
 部長部内巡視及訓示
 一三二 研究指導ノ爲小松囑託來部
 一三二 吳軍需部長脇少將來部
 福間艦政本部第五部長來部
 一三八 大島囑託來部
 永井囑託來部
 自一、二一 會計實況檢查執行
 至一、二八
 一三四 東京瓦斯低溫タル水添實驗開始
 一三五 愛知時計電氣株式會社床野、高井兩氏技術被指導ノ爲來部
 一四〇 細谷軍需局第二課長來部
 一四二 陸會冬季行事ヲ湯野溫泉ニ於テ開催
 一四五 研究部講演室ニ於テ判任官以上ニ對シ廠長訓示
 煉炭部職工食事場ニ於テ總員ニ對シ廠長訓示

一三六 御用納
 部長部内巡視及訓示
 一三二 研究指導ノ爲小松囑託來部
 一三二 吳軍需部長脇少將來部
 福間艦政本部第五部長來部
 一三八 大島囑託來部
 永井囑託來部
 自一、二一 會計實況檢查執行
 至一、二八
 一三四 東京瓦斯低溫タル水添實驗開始
 一三五 愛知時計電氣株式會社床野、高井兩氏技術被指導ノ爲來部
 一四〇 細谷軍需局第二課長來部
 一四二 陸會冬季行事ヲ湯野溫泉ニ於テ開催
 一四五 研究部講演室ニ於テ判任官以上ニ對シ廠長訓示
 煉炭部職工食事場ニ於テ總員ニ對シ廠長訓示

